

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 19 日現在

機関番号：16301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26590193

研究課題名(和文)学級のソーシャル・キャピタルによる格差抑制効果の研究

研究課題名(英文)The effects of classlevel social capital on disparity repression in the classroom

研究代表者

平松 義樹(Hiramatsu, Yoshiki)

愛媛大学・教育学研究科・教授

研究者番号：00335879

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：学級におけるソーシャル・キャピタルが、学級集団レベルでの子どもの学習意欲の向上と学習意欲の格差抑制に対して及ぼす効果を明らかにした。また、学級におけるソーシャル・キャピタル醸成のプロセスを記述するために、学級ソーシャル・キャピタルが高い学級の担任と低い学級の担任の行動観察を通して、再発話による影響力の違いを特定した。

研究成果の概要(英文)： This research project has clarified the effects of classroom-level social capital on the improving the group-level learning motivation of children who belong to the classroom and suppressing disparity the group-level learning motivation of their. In addition, this research project has described the process of building social capital. According to observation research on two types teachers - high level social capital classroom and low level social capital classroom, it found that the difference of the two teachers is on the revoicing behavior.

研究分野：教育学

キーワード：社会関係資本

1. 研究開始当初の背景

教育分野におけるソーシャル・キャピタル研究は開始されたばかりであり、学級レベルでのソーシャル・キャピタルを扱う研究は皆無の状況であった。また、ソーシャル・キャピタルが保有する機能として、格差抑制機能に着目した研究も、これまでにその可能性は指摘されていたが、実証研究は皆無の状況であった。

2. 研究の目的

学級ソーシャル・キャピタルがもつ、学級レベルでの学習意欲の向上と格差抑制の効果を明らかにする。

3. 研究の方法

調査1：A県内22校104学級調査（児童生徒3719名）。協力校方式による計量データの収集。

調査2：B県内9校119学級調査（3618名）。協力校方式による計量データと観察データの収集。

4. 研究成果

調査1の知見：

第1は、児童生徒相互及び教師と生徒のつながり、すなわち、学級ソーシャル・キャピタルの効果である。学級内での豊かなつながりは、学級レベルでの学習意欲を高めるとともに、学習意欲の格差を抑制する効果を有していることが明らかにされた。つまり、学級レベルでのつながりは、学習意欲の向上（卓越性）と学習意欲の格差抑制（公正性）の二つの価値を同時に達成する効果を有していると解釈できる。学級経営や集団づくりに力を入れ、学習過程にも児童生徒相互の相互作用場面を設定し、教師が児童生徒との間に信頼関係を醸成する等、つながりを醸成する上での当たり前の実践が、卓越性と公正性の同時達成に対して効果を有するのである。また、学級ソーシャル・キャピタルが、学習意欲の上昇分（9.7%）よりも、学習意欲の分散抑制（16.2%）を強く説明している点に注目したい。学級レベルでの児童生徒のつながりの効果として、これまで卓越性と公正性を並記してきたが、より詳細に検討すると、実は公正性効果の方が相対的に顕著であることが示されている。

第2は、学年進行の効果である。本研究では、学習意欲は学年進行とともに低下すること、また、学習意欲の格差が拡大することが明らかとなった。本研究と類似の調査研究（小学校3-6学年対象）である露口（2014）では、学級レベルでの学習意欲に対する学年進行の効果は認められていない。中学校を含めることによって、出現する効果の可能性がある。したがって、学年進行に伴う課題を克服するためには、特に中学校において、学習意欲の向上と格差抑制に効果がある学級ソーシャル・キャピタルを醸成する手立てを実践

することが重要であると考えられる。中学校における学級経営及び授業実践を、「つながり」の視点から省察し、改善することが示唆される。

第3は、学習意欲に対する家庭ソーシャル・キャピタルの影響力の脆弱さである。本研究では、4つのモデルのいずれにおいても、家庭ソーシャル・キャピタルの効果は認められていない。学級レベルで見た場合の学習意欲や学習意欲格差は、家庭の影響ではなく、学校側の影響が大きいと考えられる。この点も、先行研究である露口（2014）とは異なった結果となっている。露口（2014）では、学級レベルでの学習意欲に対して家庭ソーシャル・キャピタルが影響を及ぼしているとする結果が得られている。この点については、調査対象地区の特性を考慮すべきかもしれない。つまり、露口（2014）が政令指定都市の大規模校を対象とした調査であるのに対し、本研究はある農山漁村をひろく抱えた地方を対象としており、県内全域に調査対象が拡散している。家庭ソーシャル・キャピタルは、都市部では、その影響が学級に及びやすいが、農山漁村を中心とした地域では、そのような効果が出現しない可能性がある。この点については、今後、さらに検討を加える必要がある。

調査2の知見（計量データ分析）：

重回帰分析の結果、国語・理科・4教科については、家庭ソーシャル・キャピタルが子どもの学習意欲を高めることが確認されている。国語・算数・社会・4教科については、学級ソーシャル・キャピタルが子どもの学習意欲を高めることが確認されている。学級ソーシャル・キャピタルは、教師と子ども達のつながり、子ども同士のつながりがある。学級としての集団の力が学習意欲の向上に影響を与えていた。

この調査から、子どもを取り巻くつながりが学習意欲の向上に影響を与えていることが明らかになり、研究課題1における推測に該当する結果となった。そして、子どもを取り巻くつながりのうち、いずれのソーシャル・キャピタル次元が学習意欲に対して影響を及ぼしているのかについては、国語・4教科は学級ソーシャル・キャピタルと家庭ソーシャル・キャピタル、理科は家庭ソーシャル・キャピタル、算数と社会は学級ソーシャル・キャピタルが影響を及ぼす要因であることが明らかになった。また、子どもを取り巻くつながりは、学級レベルでの学習意欲の平均値だけでなく、学級内の格差を抑制する効果を有しているのではないかと、という仮説については、国語では子ども間ソーシャル・キャピタル、算数・理科・社会・4教科では、学級ソーシャル・キャピタルが学習意欲格差を抑制することが明らかになった。

調査2の知見（観察データ分析）：

児童を取り巻くつながりには、学校・家庭・地域等あらゆるつながりが挙げられる。そこで、調査1において、学ぶ意欲を高めるつながりの要素、学ぶ意欲の格差抑制効果について、量的調査を試みた。各教科によって少し差異も認められたが、この調査結果から、学級のつながりが、学ぶ意欲と学ぶ意欲格差を抑制する効果があることが明らかとなった。

この結果をもとに調査2では、学級のつながりがどのように学ぶ意欲を高めているのか記述を行った。学級のつながりとしては、教師と子どものつながり、子ども同士のつながりがある。まず、教師と子どものつながりについて、インタビュー調査から、どの先生方も子どもの成長を期待して働きかけており、教師の何でも受け止めるといった温かい姿勢と、人に迷惑をかけた行動に対して毅然と指導を行うといった姿勢が、学級集団としての安心感を高めることが分かった。正義が通る学級づくりを行うなかで、教師と子どもの信頼関係が少しずつ構築され、学習面に対しても努力しようとする向上心を高めることにつながっていた。また、参与観察で具体的場面を考察することにより、教師と子どものつながりは些細な対話の積み重ねにより築かれるということ、そしてそのつながりが学ぶ意欲に影響を及ぼすということが分かった。普段の何気ない対話の積み重ねから、信頼関係が築かれ、学ぶ意欲に影響を及ぼしているのである。次に、子ども同士のつながりについて、子ども同士で教え合いをする姿を調査期間中、頻繁に目にし、友達が教えてくれるから頑張ろうとする姿勢が見られた。また、授業時間中に、自分の考え方を交換する情報交換や問題の出し合いの時間を意図的に設けているクラスもあった。これらの取組は、様々な考え方を知る機会となるだけでなく、学級の中の子ども同士のつながりをさらに広げ、学ぶ意欲の向上へとつながっていた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

- ①露口健司 (2016) 「ソーシャル・キャピタルの効果性と短期変容可能性」『小学校区においてソーシャル・キャピタルを醸成する教育政策の探究』教育政策プログラム, 9-44. (査読無し)
- ②藤田奈津子・露口健司・城戸茂・平松義樹 (2016) 「児童を取り巻くつながりと学ぶ意欲の関係」『小学校区においてソーシャル・キャピタルを醸成する教育政策の探究』教育政策プログラム, 71-80. (査読無し)
- ③露口健司 (2016) 「子どもを取り巻くつながりと学習意欲の関係—ソーシャル・キャピタルの視点からの分析—」『愛媛大学教育学

部紀要』63, 13-29. (査読無し)

- ④露口健司 (2015) 「学級におけるつながりは学習意欲の格差を抑制できるか—ソーシャル・キャピタルの視点からの分析—」『九州教育経営学会研究紀要』21, 27-34. (査読有り)

[学会発表] (計 2 件)

- ①露口健司 (2016) 「ソーシャル・キャピタルの効果性と短期変容可能性」日本教育経営学会, 京都教育大学 (京都府京都市).
- ②露口健司 (2014) 「学級におけるつながりは学習意欲の格差を抑制できるか—ソーシャル・キャピタルの視点からの分析—」九州教育経営学会, 九州大学 (福岡県福岡市).

[図書] (計 2 件)

- ①露口健司 (2016) 『つながりを深め子どもの成長を促す教育学』ミネルヴァ書房, 1-266.
- ②露口健司 (2016) 『ソーシャル・キャピタルと教育—つながりづくりにおける学校の役割—』ミネルヴァ書房, 1-248.

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況 (計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

平松義樹 (HIRAMATSU, Yoshiaki)
愛媛大学大学院教育学研究科・教授
研究者番号: 00335879

(2) 研究分担者

露口健司 (TUYUGUCHI, Kenji)
愛媛大学大学院教育学研究科・教授
研究者番号: 70312139

城戸茂 (KIDO, Shigeru)
愛媛大学大学院教育学研究科・教授
研究者番号：00591091

諏訪英広 (SUWA, Hidehiro)
兵庫教育大学・先端研究推進機構・准教授
研究者番号：80300440

倉本哲男 (KURAMOTO, Tetsuo)
愛知教育大学大学院・教育実践研究科・教授
研究者番号：30404114

増田健太郎 (MASUDA, Kentarou)
九州大学人間環境学研究院・教授
研究者番号：70389229

(3)連携研究者 なし

(4)研究協力者 なし